地域福祉の充実をめざして、
支える心のネットワーク！

Fukushi CHIBA

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

福祉ちば

No.206
2025.11 November

Field Study（フィールドスタディ）
地域の福祉活動

横芝光町
東陽地区
社会福祉協議会

地域福祉フォーラムを活用して
誰でも楽しめるレクリエーションスポーツを気軽に行ける身近な場所で開催

Fukushi 特集 CHIBA

効率化と負担軽減
介護テクノロジーの導入で、変わる現場！

エールちば
地域貢献活動にも全力でチャレンジ！
子どもたちが憧れる球団になる（千葉スカイセイラーズ（船橋市））

県社協ニュース

- 花島会長が熊谷知事に予算要望書を提出
- 災害ボランティアセンター運営支援システム研修会を開催

編集・発行 社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

Field Study（フィールドスタディ）
地域の福祉活動

横芝光町 東陽地区社会福祉協議会

地域福祉フォーラムを活用して誰でも楽しめるレクリエーションスポーツを気軽に行ける身近な場所で開催

横芝光町の東陽地区社会福祉協議会（以下、東陽地区社協）は、住民同士がつながる機会をつくるために、スポーツの経験などに関係なく誰でも楽しめるレクリエーションスポーツを、住民の参加しやすさを考慮した小地域ごとに開催。新たなつながりが次々と生まれています。

行事やイベントを増やして住民同士のつながりを構築

横芝光町には旧小学校区単位に7つの地区社協がありますが、そのなかで東陽地区は町役場や町社協が設置されている中心的なエリアです。東陽地区社協の運営委員は今年度34名で構成され、民生委員児童委員、学識経験者、ボランティア、行政総務員（行政と町民をつなぐパイプ役として各地区から選出）など、さまざまな立場の方が参加しています。

東陽地区社協は今年度から3年間、「地域福祉フォーラム」に取り組むことになりました。これは千葉県独自の、地域福祉を推進するための施策で、地域のさまざまな分野の方が「地域づくりのあり方・取り組み方」を考える場や仕組みのことです。

東陽地区社協の会長、長嶋豊さんは地域福祉フォーラムを申請した経緯について「住民同士がつながる機会をつくるため、行事やイベントを増やしたいと考えていました。そこで申請を行い、県からの助成金を活用して、新たな事業を立ち上げようと役員同士で話し合いました」と、話します。

車いすの高齢者でも楽しめるレクリエーションスポーツ

地域福祉フォーラムの事業として何に取り組むかを協議した結果、前年度に開催して参加者から「楽しい」と好評だった「レクリエーションスポーツ体験会」を、4 つの小地域単位で開催することになりました。

このレクリエーションスポーツは健康増進や認知症予防のほか、参加者同士が交流して地域のつながりをつくることを目的としたオリジナルのもので、ご高齢の方や車いすユーザーの方も楽しめるように工夫されています。

たとえば「力加減ゲーム」は、グラウンドゴルフのスティックでボールを打って、点数を競いますが、遠くまで転がすよりも近くで止まったほうが点数が高くなるケースがあるなど、力加減や運の良し悪しで決まるように設定されています。そのほか、バラバラにした絵をつなぎ合わせる「絵合わせ」や輪投げなど誰でも参加できるいくつかのゲームが用意されています。

東陽地区社協のみなさん。左から会長の長嶋豊さん、副会長の川島重男さん、会計の草葉和子さん、監事の越川秋子さん

レクリエーションスポーツ体験会（力加減ゲーム）

レクリエーションスポーツ体験会（絵合わせ）

移動手段をもたない人も歩いて参加できるイベント

「レクリエーションスポーツ体験会」を小地域単位で実施するのには理由があります。実は昨年度、東陽地区の高齢者全員を対象に地区内1ヶ所でこのイベントを開催したところ「行ってみたいけれど、会場まで遠くて歩けない」「車がないから行くことができない」という声が上がったのです。

そこで移動の手段を持たない高齢者でも気軽に参加できるように、東陽地区を4つの地区に分けて、身近な場所で開催することにしました。

イベントの周知のためにチラシを全戸配布。初回には約20名の方が集まりました。「近くの会場だから、散歩がてら参加できた」「近所の会場だと帰りも安心だね」などの声が多く聞かれたといいます。

ゲームは数人のグループに分かれて進めますが、「あえて知らない人同士が組むように配慮しました」と、会計担当の草葉和子さんは話します。「最初はぎこちなくても、ゲームがスタートすると応援合戦が始まり、グループのメンバーはすぐ打ち解けて、おしゃべりが弾んでいました」

グループ間で点数を競いあうので、とても盛り上がるといいます。そのような交流を通して、新しいつながりが次々と生まれました。

今後は参加者がさらに増えて、このイベントが浸透していくことが期待されます。「人集めは難しく、集客は私たちの課題となっています。近所の方に声掛けすることから始めて、もっと人の輪を広げていきたい」と監事の越川秋子さんは考えています。

小学生との世代間交流など様々なイベントも充実

東陽地区社協は、地域福祉フォーラム以外の事業にも活発に取り組んでいます。そのひとつが毎年恒例となっている「七夕馬づくり」で、地区内にある光小学校の4年生を対象に7月に実施しています。

準備は6月から始まり、運営委員が七夕馬の材料となるイネ科植物「マコモ」を軽トラック2～3台分刈って干しておきます。今年は小学校の体育館に約 40 名の生徒が集まり、運営委員から作り方を教えてもらいながら、それぞれ一頭ずつ完成させました。児童たちはとても喜んで、大事に自宅に持ち帰ったそうです。

「七夕馬づくり」は、子どもたちとふれあう世代間交流の貴重な場であり、運営委員のみなさんがチーム一丸となって取り組んでいます。

また毎年9月は 65 歳以上を対象に「交流会」（敬老会）を開催しており、今年は歌謡ショーのほか、老人クラブの演劇も上演されました。会場は町民会館ですが、遠方から来る方のためにマイクロバスや中型バスを手配しています。

七夕馬づくり

副会長の川島重男さんは「都市部と違って、当町は路線バスやタクシーなどの交通が整っていないので、高齢者のなかには移動の手段をもたない方が多くいらっしゃいます。誰もが安心して参加できるように、対策を考えるのも我々の役割です」と話します。

今後の活動について、長嶋会長は「役員や地区の皆さんとともに、和気あいあいとやっていきたい」と笑顔を見せます。これからも東陽地区社協は地域の人たちが楽しく交流できる機会をたくさんつくって、つながりを広げていく活動に取り組んでいくことでしょう。

交流会（敬老会）

横芝光町社会福祉協議会　TEL 0479-80-3611

新たなレクを考案して地域に広げていく取り組み

横芝光町社協のみなさん

東陽地区社協が、地域福祉フォーラムの事業として取り組んでいる「レクリエーションスポーツ体験会」の種目は、横芝光町社協が考案したオリジナルです。

これまでグラウンドゴルフやボッチャなどの大会を開くと参加者の大半が経験者で、ルールがわからない方や、激しい動きをすることが難しい方が楽しめない状況がみられました。そこで知識や技術に関係なく、誰もが楽しめるオリジナルの種目を町社協で新たに作り出すことになりました。

この「レクリエーションスポーツ」を町内に広めるため、「7地区社協合同レクリエーションスポーツ大会」を開催。全ての地区社協からそれぞれ15名程度の運営委員が集まって、体験することになりました。横芝光町は合併によって発足したこともあって、地区社協同士が関わりを持つ機会が少なかったため、交流を促す目的もありました。

体験した運営委員からは一様に「面白かった」という感想が寄せられ、7地区すべてで地域の高齢者に向けた体験会が開催されるよう、現在取り組みを進めています。また「他地区のみなさんと仲良くなれた」と地区社協同士の関係強化にもつながりました。

今後も年に1回「7地区社協合同レクリエーションスポーツ大会」を主催し、新たに考案した種目を次々紹介して、継続的な事業にしていく予定です。

Fukushi 特集 CHIBA

効率化と負担軽減 介護テクノロジーの導入で、変わる現場!

11月11日は介護の日。介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、それらを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する日として定められています。そんな介護の日にあたり、今回は介護現場のテクノロジー導入について２つの施設を取材しました。導入にあたっての思いや創意工夫などをご紹介します。

テクノロジーは活用の仕方がポイント！

社会福祉法人 涼風会 特別養護老人ホーム 柏きらりの風

特別養護老人ホーム 柏きらりの風

レンガ色の外観が、ひときわ目を引く柏きらりの風は、「わたしの思い、あなたの思いも、私の想い」がスローガンの介護施設です。

建物が“にしはら幼稚園”との合築であることから、子どもと高齢者の交流も活発。交流目的で開かれるカフェ「きらりん」にロビースペースを提供するなど、地域との相互理解にも力を入れています。

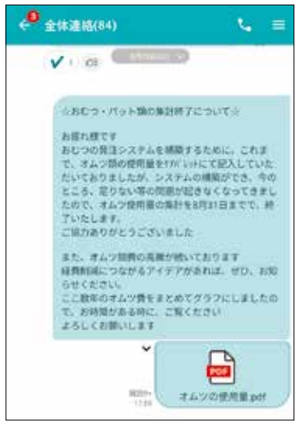
カフェ「きらりん」

情報共有に欠かせないアプリ

平成9年に設立された社会福祉法人涼風会では、コロナ禍に「ビジネスチャットdirect」と、「介護記録アプリ」の2つを導入し業務の効率化を行いました。「申し送りや記録など、紙媒体で行ってきたことをスマートフォンやタブレットで確認できるようにしました。どちらも慣れるまでに半年程かかりました」と語るのは、副施設長の岡田卓也さん。必要に迫られての導入でしたが、今ではなくてはならないツールです。

副施設長の岡田卓也さん

「シフト勤務のため、職員全員が揃うことは難しい。そんな中、伝達事項を一斉に知らせることができるのは大きな利点です」とのこと。特にビジネスチャットはPDFデータなどの共有も容易で使いやすいようです。未読者の確認も可能で、伝達漏れ防止に効果的です。



ビジネスチャットdirect

使い方ルールの必要性

「デジタル機器が苦手な職員からは不安の声もありましたが、導入後は“手軽でわかりやすい!”という声が多く聞かれました」とは、DX推進委員長を務める遠藤浩隆さんの言葉。対面では言いにくいことを上司に相談するなど、活用範囲も広がっていますが、課題もあります。「個人のスマートフォンに通知が入るため“休日は閲覧不要”などのルールを定めました」と、個人の負担にならない配慮も。

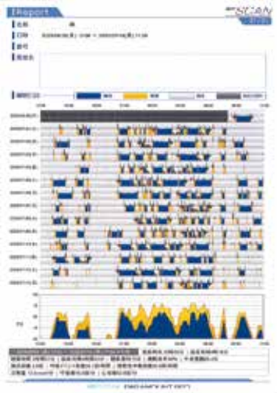
DX推進委員長の遠藤浩隆さん

介護記録アプリについては、データを日々の介護に活かすことが課題。使い方の掘り下げに注力しています。

眠りSCANの導入で効率的なケアを

きらりの風は、千葉県の“介護事業所における業務改善支援事業”のモデル介護事業所となったことをきっかけに、見守りシステムの睡眠計測センサーも導入し、40床に設置済みです。昼夜逆転の利用者さんの昼寝のタイミングを調整したり、離床アラートを個別設定して夜間訪室の時間をずらしたりと、生活リズムを整えることもできます。「体調の変化にも気づきやすく、データとしてお伝えできるので、ご家族に連絡する場合などに有効です」と、遠藤さん。当初は夜勤職員の負担軽減が目的でしたが、利用者のQOL向上にも一役買っています。

「機器のメンテナンスも課題ですが、千葉県介護業務効率アップセンターの相談窓口もあり安心。今後もテクノロジーの導入には積極的に取り組みたいですね」と、二人は声を合わせました。



見守りシステムの睡眠計測センサー

入念なリサーチとデモンストレーションがカギ

社会福祉法人 かずさ萬燈会 特別養護老人ホーム 中郷記念館

特別養護老人ホーム 中郷記念館

「この人の笑顔のために」という理念のもと、人間力、改善力、納得力を追求して事業に取り込むかずさ萬燈会。高齢福祉部門では「普通に暮らす」ことを重視し、主体となるのはあくまで利用者の方々だと考えます。

文化祭

また、文化祭などの催しに力を入れているのも特徴。地域に根差し、地域を支える施設となっています。

職員の労災を減らしていきたい

施設長の山田博樹さん

長年、介護現場での課題である労災。特に利用者の移乗では、職員の腰に大きな負担がかかります。中郷記念館ではノーリフトケアを目指し、職員の腰痛予防、利用者の安全確保やQOL向上を目的とした一環としてテクノロジーの導入を行っています。

「現在、18～78歳までの職員がいますが、年齢や体格に関係なく長く勤務してもらうために介護テクノロジーを導入しました」と語るのは施設長の山田博樹さん。担当となった介護職員の江澤明美さんは、福祉機器展を視察しデモ機をレンタル。「チャレンジ精神旺盛な職場なので、皆興味津々でした。短期間ではごく一部の職員が試すだけなってしまうので、デモ機は長期で借りました。“使わない人や時間”がないよう、フル活用しました」とのこと。その結果、返却後には早く本格導入して欲しいという声が職員から次々にあがりました。

現場の職員の意見を尊重

「使い方を覚えるため実演をタブレットで動画撮影。皆で見て覚えました」と、導入への創意工夫も。日本語が得意ではない外国人技能実習生たちもすぐに使い方を覚えられ、職員間のスキルの差もないとのこと。

また、介護の現場ではコミュニケーションが最も重要だと言う江澤さんは「リフトを使うことで触れ合いが減るのでは?という懸念もありましたが、実際には迅速な移乗によって時間的にゆとりが生まれました。むしろ触れ合いは増えています」と笑顔。テクノロジーの導入は、コミュニケーションにもプラスに働いています。

環境に合った機器を選ぶ重要性

介護職員の江澤明美さん

中郷記念館では、ユニットタイプのフロアでリフトを使用していますが、多床タイプのフロアには導入していません。これは業務のスタイルに合わせた判断です。「技術は日進月歩。福祉機器展には必ず行き、各部署にマッチする機器を見つけたい」と江澤さん。一方で山田さんは「職員の意見を聞き、現場の希望を叶えられる運営を目指したい」と、気を引き締めます。

今後は、夜勤の負担軽減のための見守りシステムも検討していきたいとのこと。誰もが笑顔になれるテクノロジーの活用が目標です。

県社協ニュース KENSHAKYO NEWS

花島会長が熊谷知事に予算要望書を提出

花島会長は、8月29日(金)に県庁にて「令和8年度千葉県予算に関する提案・要望」を熊谷知事に提出しました。要望書は、市町村社会福祉協議会(以下:社協)からの意見等を踏まえ、今後の社協の取組みを継続・発展させていくために対応いただきたい事項を取りまとめたもので、重点要望事項4項目、要望事項5項目で構成されています。

花島会長は、「特に緊急かつ重点的に御対応いただきたい2項目として、①災害時の様々な福祉的支援に対する公的財源を担保し、広く『災害救助』として認められるよう国へ要望していただきたい、②千葉県として成年後見制度利用促進体制の強化・推進に向けて積極的に取組んでいただきたい」と要望しました。

熊谷知事からは、「災害時に被災者へ迅速な支援を届けるため、災害ボランティアセンターの円滑な運営は大変重要だと考えている。また、成年後見制度については千葉県社協に受託していただいているが、今後は認知症高齢者の増加等で成年後見制度の利用が増大する見込みがある。協議会の設置等に向けて連携して取り組んでまいりたい」との回答がありました。

熊谷知事(右)に要望書を提出する花島会長(左)

災害ボランティアセンター運営支援システム研修会を開催

千葉県社協では、昨年度より千葉県の補助を受けて「災害ボランティアセンター(以下、災害VC)運営支援システム」を導入しています。

このシステムは、大規模災害発生時に地元の社会福祉協議会等が中心となって設置・運営する災害VCの活動を、より円滑に進めることを目的としています。

県内全域での運用に向けて、9月1日には市町村社協職員を対象とした操作研修会を開催し、101名が参加しました。

今後も本会では、市町村社協と連携しながら、災害VCの運営をはじめとする災害支援活動に関する研修や訓練を重ね、有事に備えてまいります。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和７年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットはコチラから(ふくしの保険ホームページ)

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が５類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して２つのプランとします。

保険金額・年間保険料(１名あたり)

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類 ＼ プラン			基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	特定感染症		補償開始日から補償(*)	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

＊特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

＜重 要＞

◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
◆中途脱退による保険料の返金はありません。
◆中途でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
◆ご加入は、お１人につきいずれかのプラン１口のみとなります。

ボランティア行事用保険(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償(傷害保険)

福祉サービス総合補償(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667
受付時間:平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ23-11315より抜粋〉

令和７年12月１日より 歳末たすけあい募金が始まります

歳末たすけあい募金は共同募金の活動のひとつで、新たな年を迎える時期に、支援を必要としている人が安心して暮らすことができるよう毎年 12月に実施されます。歳末たすけあい募金には市町村の区域ごとに行う「市町村歳末たすけあい募金」と「NHK歳末たすけあい募金」があります。

今年も県内のさまざまな地域課題の解決のために、歳末たすけあい募金への温かいご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年度 歳末たすけあい募金目標額

2億1,000万円

内訳
市町村歳末たすけあい募金 ・・・1億8,225万円
NHK歳末たすけあい募金 ・・・・・・2,775万円

市町村歳末たすけあい募金(地域歳末たすけあい募金)

市町村を単位に全国で行われる運動で、住民の参加や理解を得てさまざまな福祉活動を重点的に展開するものです。お寄せいただいた募金は、全額が集められた地域で使われます。

千葉県内では、子ども食堂でのクリスマスイベントの開催や高齢者へのお正月料理を配りながらの見守り訪問、生活困窮者への食糧支援など支援を必要としている人たちが安心して新年を迎えることができるよう様々な福祉活動に役立てられます。

独居高齢者や高齢者世帯への
お弁当配布事業【栄町】

『内郷子どもカフェ』
(子どもの居場所作り)【佐倉市】

NHK 歳末たすけあい募金

NHKと共同募金会の共催で行われる助けあい運動です。お寄せいただいた募金は下記に活用されます。

①県内の福祉施設への支援

県内の高齢者福祉施設や障害者福祉施設の福祉車両や介護用品、就労支援作業用品、防災用品などの備品の整備に役立てられます。昨年度は91施設へ助成を行いました。

②児童養護施設等を退所される方への支援

児童養護施設等を退所される方(ケアリーバー)に対し、「自立支援金」をお渡ししています。昨年度は48名の方に支援を行いました。

特別養護老人ホームの
介護用備品の購入【船橋市】

みなさまからお預かりした募金は、県内の様々な福祉のために役立てられています。

助成団体の声

みなみっこ食堂 クリスマス会

通常はカレーライスの提供ですが、資金を得て、クリスマス会を開催することができました。

サンタクロースに扮したスタッフからお菓子のプレゼントをしたり、参加した子どもたちが手作りカップケーキに、思う存分生クリームを絞り、たくさんのトッピングをしたりと、にぎやかで楽しい会となりました。

ありがとうございました。

送迎用車両の購入(特別養護老人ホーム花のいろ)

近年、施設利用者の病院の受診が増えており、車両が不足しておりましたが、今回助成をうけて増車することができました。

大きい車両を購入することができたため、車いすのままの乗車もスムーズに行うことができ、またご家族が同乗して受診することも増えました。ご支援いただきありがとうございました。

募金の詳しい使いみちは
赤い羽根データベース「はねっと」

この他にも、いただいたご寄付で県内で行われている様々な活動を支援しています。「はねっと」では県内の支援活動を紹介していますので是非ご覧ください。

共同募金は、時代とともに変わる「みんなのため」の募金です

共同募金運動は、第二次世界大戦後、昭和22(1947)年に「国民たすけあい運動」として戦後復興を目的に始まりました。現在では、高齢者や障がい者に対する支援のほか、子ども食堂の運営や地域の交流のための事業など、時代の移り変わりに合わせたさまざまな地域の課題解決に取り組んでいます。赤い羽根募金は、「じぶんの町を良くするしくみ」。長年、運動に携わってきたボランティアの皆さま、寄付者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

社会福祉法人 千葉県共同募金会

〒260-0026
千葉県千葉市中央区千葉港4-5
県社会福祉センター4F
TEL:043-245-1721 FAX:043-242-3338
https://akaihane-chiba.jp/
赤い羽根 ちば

千葉県共同募金会
マスコットキャラクター「ぴわぴよ」

千葉県ボランティア・市民活動センター機関誌
エールちば

地域貢献活動にも全力でチャレンジ！子どもたちが憧れる球団になる

千葉スカイセイラーズ（船橋市）

千葉県で初めてとなる独立リーグのプロ野球チーム。選手の人材育成に努めるとともに、子どもたちや学生に向けたさまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。

千葉県初となる独立リーグの球団

千葉スカイセイラーズは2022年に創立した千葉県初の独立リーグのプロ野球チームで、船橋市をホームタウンとして活動しています。選手は30名ほどおり、平均年齢は20～22歳と若く、千葉県出身者が多く在籍しています。

独立リーグとは千葉ロッテマリーンズなどが加盟するNPB（日本プロ野球機構）とは異なるプロ野球リーグの総称で、活動の主な目的は若手選手の育成とNPBに入団する架け橋となること、さらに地域社会の活性化に貢献することです。

同球団は2026年のシーズンから国内最大の独立リーグに正式参加して、年間60～70試合行いますが、その試合の半数は千葉県内で開催されます。

同球団は地域に根差した運営を掲げ、シーズン中も選手が交代で活動に参加し、チーム全員で地域貢献活動に取り組む体制を敷いています。

選手も参加して「子ども食堂」を開催

同球団は子どもの居場所づくりのための子ども食堂を月1回、船橋市内で開催しています。地域の農家やJAから食材の寄付を受け、調理スタッフ、管理栄養士などがボランティアとして協力し、毎回30食分の食事をつくります。

子ども食堂には選手も交替で参加し、地域の親子やボランティアのみなさんとの多世代交流を図る場となっていますが、子どもたちにとっては選手といっしょに遊べることが魅力のひとつです。

球団にとっては選手をPRする機会でもあり、一人ひとりの選手のデータが印刷された「選手カード」を子どもたちに配布しています。「選手カード」をコレクションするために毎月参加してくれる子もいます。

障害者施設の子どもたちも毎月参加。初めは選手との交流に戸惑っていましたが、次第に打ち解け、今では試合を見に来てくれるようになりました。

小中学校での「出張授業」が人気

県内の小学校に選手が訪問して、児童たちにボールの投げ方、打ち方などの基本を教える「出張授業」。ボールを握ったことのない児童にも丁寧にやさしく指導しています。

多くの生徒はプロ野球選手とふれあうのは初めて。見本で豪快なバッティングや剛速球を披露すると大歓声が巻き起こります。子どもたちが野球をする機会が減少するなか、この出張授業は人気を呼んで多くの学校から依頼が寄せられています。

さらに地域の高校と連携し、生徒がスポーツビジネスを学ぶ支援も行っています。座学だけでなく、生徒は試合のPR動画を制作したり、試合当日の準備やチケット販売などさまざまな仕事を体験します。学校のなかでは学ぶことができない実践的な勉強ができると、生徒や教員から好評を得ています。

さらに地域でお祭りやイベントが開催されると積極的に参加し、的当てゲームの「ストラックアウト」などを行って、地域の人と交流しています。子どもたちといっしょに芋ほりをしたり、まちの清掃活動にも参加しています。

球団のエネルギーを地域のため・子どもたちのために

球団の代表取締役、杉山慎さんは「私たちにとって地域貢献活動は大切なものです。一生懸命に取り組んでいるからこそ、チーム名も知られるようになり、試合で応援してくれる方も増えてきました」と話します。

最初は活動に戸惑っていた選手のみなさんでしたが、活動先で子どもたちの笑顔に出会い、感謝の言葉をもらうことでやりがいを感じるようになってきました。

「地域のために、子どもたちのために」を第一に考え、できることがあれば、積極的に取り組んでいきたいと話す杉山さん。同球団は、子どもたちの憧れのチームになることを目指す一方で、地域住民にとってより身近なプロ野球チームであるという強みを活かし、今後も地域や子どもたちのためにさまざまな活動を続けていきます。

代表取締役 杉山さん

編集・発行　社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会
令和7年11月1日発行
〒260-8508 千葉市中央区千葉港4番5号　TEL.043-245-1101　FAX.043-244-5201
https://www.chibakenshakyo.com
広報誌「福祉ちば」発行には、一部共同募金の配分金を充当しています。